

# 「協同の21世紀」と大学生協の接点

1999.11.15 岡安喜三郎

21世紀初頭ののキーワードは「地域（コミュニティ）」。グローバル化であろうと、少子・高齢化であろうと、高等教育機関の再編であろうと、「地域」「地域における協同」を抜きにした論議、展開はあり得ない。

・市場経済と社会的経済（非営利協同の事業）

協同の良さを知った学生が、大学生協や地域生協に留まらず、地域における協同の活動、多様な非営利・協同組織の可能性に関心を示すことが、「協同の21世紀」を推進する。

大学生協は、一番若い青年が初めて組合員として参加（正當的に参加）する協同組合である。学生は初めて、主体的に協同組合とは何かを知ることができる、その条件がある。

（協同組合陣営における大学生協の位置）



## ビジョン（案）

大学生協は協同組合の一員として、（学生）組合員に対して全協同組合運動の窓口となる。（紹介、連絡etc.）

大学内で大学生協の枠を越えた様々な協同活動の存在と可能性を認識し、その取組みを支援する。

これらの活動を支援する、全国センター／地域センターがある。

## アクション・プラン（案）

大学生協は協同組合の一員として、（学生）組合員に対して全協同組合運動の窓口となる。

- ・あらゆるタイプの協同組合（購買生協、医療生協etc.、農協etc.、労金、信金etc.）
- ・新しいタイプの協同組合（ワーカーズ・コープ、マルチ・ステークホルダーズ・コープ等）  
「起業」「独法化」等への対案・オプションとしての協同組合とも言える

大学内で大学生協の枠を越えた様々な協同活動の存在と可能性を認識し、その取組みを支援する。

- ・CIECは「学術協同組織」と自認（＝出資以外は、協同組合手法で運営している）
- ・大学教員が「チーチャーズ・コープ」を結成して地域に繰り出すことも可能（それを支援）
- ・新「コープ」の自立性及び大学生協の(支援)関係がデザインされれば、豊かな協同が創出

これらの活動を支援する、全国センター／地域センターがある。

- ・ICA原則の認知活動
- ・学生委員会
- ・事務局渉外部門＜JJC（日本協同組合協議会）などとの関係＞国際活動との関連で